

四日市と凄い人列伝 プチ展示版



渋沢栄一



2021年
11月30日(火)まで

日本の資本主義の父と呼ばれ、大河ドラマや、新一万円札の顔でも話題の「渋沢栄一」。実は、四日市と渋沢の縁は深く、渋沢はたびたび四日市を訪れ、四日市における様々な事業に深く関わりました。また、その存在は、四日市の商工業の発展にも、欠かせないものでした。今回は、地域資料室にある資料の中から渋沢栄一が登場するものを紹介します。

渋沢栄一が登場する資料

※○…貸出可(持出可)、×…貸出不可(禁帯出)

資料名	著者	出版社	発行年	請求記号	貸出
よっかいちai vol.63-86 (vol.79)	よっかいちai編集室/編集	中広	2014	L/051//14	×
文化展望・四日市 第20号	四日市市文化振興財団/編集	四日市市文化振興財団	2003	L/051//20	○
三重県史 通史編近現代 1	三重県/編集	三重県	2015	L/200//	○
まんが三重県の歴史 6	樋田 清砂/監修	郷土出版社	1993	L/201//6	○
四日市志 附 名所案内	伊藤善太郎/著	伊藤善太郎	1907	L/223//	×
四日市市史〔昭和5年版〕	四日市市教育会/編纂	名著出版	1973	L/223//	○
四日市市史 第12巻	四日市市/編集	四日市市	1993	L/223//12	○
四日市市史 第18巻	四日市市/編集	四日市市	2000	L/223//18	○
近代四日市の幕開け	四日市市立博物館/編集	四日市市立博物館	1997	L/282//	○
四日市の礎 111人のドラマとその横顔	志水雅明/著	四日市市文化協会	2009	L/282//09	○
伊藤伝七翁 伝記・伊藤伝七	絹川太一/編	大空社	2000	L/289/1ト/09	×
創業者は七代目	辻原登/著	毎日新聞社	1995	L/28/オカ/	○
広報よっかいち 平成25年度分収録版(4月上旬)	四日市市役所政策推進部 広報広聴課/編集	四日市市役所政策推進部 広報広聴課	2014	L/318//13	○
四日市商工会議所百年史	四日市商工会議所/編集	四日市商工会議所	1993	L/330//	○
至誠 三重県立四日市商業高等学校創立110周年記念誌	創立110周年記念誌編集委員/編	三重県立四日市商業高等学校創立110周年記念事業実行委員会	2006	L/376//06	×
東洋紡績株式会社富田工場	歴史的建造物研究会/編集	四日市市教育委員会	1996	L/522//	○
百年史 東洋紡 上・下	東洋紡績株式会社社史編集室/編集	東洋紡績	1986	L/586//1	×
三重県事業史	第九回関西府県聯合共進会三重県協賛会/著	第九回関西府県聯合共進会三重県協賛会	1907	L/60/07/	○
物流は果てしなく	楨村一世/著	四日市倉庫	1989	L/683//	○
商工春秋 No.802~804		四日市商工会議所	2021	冊子・パンフ	×
四郷の先覚者たち	四郷ふるさと実行委員会ほか/編集	四郷ふるさと実行委員会ほか	[2020]	四郷地区パンフ	×
渋沢栄一伝記資料 (全58巻+別巻2冊)	渋沢青淵記念財団竜門社/編集	渋沢栄一伝記資料刊行会	[1969]	/289/シフ/	×

★ 貸出が×となっても、市内の他の図書館で貸出できる場合もあります。

渋沢栄一と四日市の関わり

- 1884(明17) ・頭取を務める第一国立銀行の四日市支店を開設。東海地区初出店。
 ・有志者と共に、「四日市-垂井(岐阜県)間」の鉄道設置を出願するも、不成立。
 ・四日市で、同地での倉庫業について説く。
- 1886(明19) ・伊藤伝七より、三重紡績所について相談され資金面などで援助。三重紡績会社を設立させる。
 のちに伊藤に次ぐ出資者となる。
- 1887(明20) ・四日市工業会社から紙質製造部を分離させ、四日市製紙株式会社設立。渋沢、株主となる。
- 1888(明21) ・四日市製油会社設立に伴い、資金援助をする。
- 1918(大7) ・三重県立四日市商業高等学校で生徒に向けて講演する。



渋沢栄一と四日市ゆかりの人物との関わり

伊藤伝七(十世) 〈1857~1924〉：四日市の酒造業伊藤伝七(九世)の長男に生まれる。企業家。

父・伊藤伝七(九世)、伊藤小左衛門(五世)らと共に、三重紡績所を設立するも経営不振となる。三重県令(今の県知事)・石井邦猷の紹介により渋沢に助言を求めた。1886年、渋沢の資金面の援助と、大規模工場の設置の提案を受け、三重紡績会社を設立した。三重紡績会社は、その後も成長を続け大阪紡績と合併し、東洋紡績株式会社となった。

十世・伝七は、紡績業にとどまらず、鉄道業、倉庫業など多くの事業に関わり、この地域の商工業の発展に尽力した。

伝七の墓の横に立つ石碑には、渋沢が作った文が刻まれている。

八巻道成 〈1857-1926〉：宮城県仙台に生まれる。銀行家。

渋沢栄一の設立した「第一国立銀行」に入行。八巻が「四日市は主要地だ」と進言したこともあり、渋沢は四日市支店を設置。八巻は支店長となる。泗水商工会を興すなど、この地域の商工業の発展に尽力した。

三重紡績会社では、渋沢の代理人として創立委員長を務めた。また、四日市製紙会社、四日市製油会社などの設立にも、深く関わった。

九鬼紋七(八代目) 〈1866-1928〉：四日市九鬼家に生まれる。実業家。

父の七代目紋七は、三重紡績会社や関西鉄道の創立に尽力した実業家だった。父が力を注いだ三重紡績会社では、取締役就任、東洋紡績株式会社になってからは監査役を務めた。また、四日市製油所会社が解散したのち、その財産・事業を引き継いだ。(のちの九鬼産業株式会社)

岡田惣右衛門 〈1885-1927〉：呉服商・岡田屋六代目当主。

明治35年、四日市商業高校に在学中の卒業年の夏、友人たちと地場産品を仕入れ、それを売りながら徒歩で目的地へ向かう「行商」に挑戦した。最終目的地に設定したのは「東京での渋沢栄一との面談」。面談は叶い、言葉は交わさなかったが、握手を交わすことができた。

※この資料の作成にあたり、公益財団法人渋沢栄一記念財団ウェブサイト(www.shibusawa.or.jp)も参考にしました。

